授与機関名　順天堂大学

学位記番号　甲第 2220 号

Clinicopathological characteristics associated with necrosis in pulmonary metastases from colorectal cancer

大腸癌肺転移巣における壊死と関連する臨床病理学的要素の検討

鈴木　潤（すずき　じゅん）

博士（医学）

論文内容の要旨

大腸癌肺転移では壊死の頻度が高いことはよく知られているが、壊死が起こる要因について検討された研究はない。本研究では、大腸癌肺転移において壊死と関係する臨床病理学的特徴を明らかにすることを目的とした。2012 年から 2017 年の期間において 3cm 以下の大腸癌肺転移に対する初回切除例 90 症例を対象として検討した。病理標本スライドをデジタル化し、壊死率(壊死面積/腫瘍面積)を算出し、臨床病理学的項目との相関を解析した。また、壊死率が増殖能、低酸素、増殖能に影響されるかを調べるために Ki-67、Carbonic anhydrase IX (CA IX)、CD34 を用いて免疫染色を施行し、壊死率との関係を分析した。腫瘍面積の中央値(範囲)は 0.69 cm2 (0.11-3.01)、壊死率は 13.1% (0- 71.6)であった。臨床病理学的検討では、壊死率は腫瘍面積とは相関しなかったものの、喫煙歴のある患者で壊死率が有意に高かった (8.14% vs 17.1%, p = 0.045)。 免疫染色でも検討したが、Ki-67、CA-IX 陽性の腫瘍細胞の割合、CD34 陽性微小血管密度または微小血管面積のいずれも壊死率との相関を示さなかった。本研究からは、大腸癌肺転移におけるの壊死は増殖能、低酸素、血管新生とは関連しないことが判明した。喫煙歴と壊死率が相関しており、喫煙により壊死が生じやすい様な肺微少環境の変化が起きている可能性が考えられた。